民児協 せんなん

第54号
令和7年7月1日
泉南市民生委員児童委員協議会
会長　杉本　昇
編集
泉南市民児協広報部会

ほうこう

みなさんで
よんでください

みなさんへ

なの
いつもあいさつしてくれてありがとうございます。
あつい日もさむい日もあいさつしてくれていつも元気がでます。
これからもかぜにきをつけてがんばってください

なつき
これからからも元気にあいさつがんばってください。

3年　なの花となつき

令和7年度 泉南市民生委員児童委員協議会総会

今年度の民児協総会が5月24日泉南市総合福祉センター1階大会議室にて開催されましたので報告します。（広報部会）

第1部

杉本会長から「12月の一斉改選を控え、4千名に及ぶ避難行動要支援者名簿の更新のお手伝いなど、3年前の『点から面への活動へ』という抱負がある程度図られ、来期へ継続したい、また増大する資料の配布などご苦労をおかけしましたが、タブレットの導入など検討していきたい」と挨拶がありました。

ご来賓の山本市長からは「子どもの権利救済委員会の創設、認知症条例の制定などの取り組みと今後防災対策を抜本的に見直していきたい」とご挨拶頂きました。

令和6年度活動報告、決算報告及び監査報告、令和7年度活動計画、予算、規約改正については原案通り承認されました。

第2部（敬称略）

【お知らせ】

子どもの権利救済委員会

子ども政策課　古藤　典子

当市では他に先駆けて「子どもの権利に関する条例」を制定し、「子どもにやさしいまち」をめざして、毎年「子ども会議」を開催するなど子ども参加を推進して取り組みを進めてきました。

このたび、この条例を改正し、子どもや保護者など誰でも相談や救済の申し立てができるような仕組みができました。

市長と教育委員会共同の付属機関として第三者による「子どもの権利救済委員会」として7月中旬から本格的に稼働させることになっています。地域の皆様の温かいご支援と子どもたちへの広報の協力をよろしくお願いします。

【講演】

大災害における市民の力

行政経営部（防災担当）

副参与　近森　久主

平成4年に幹部候補生として自衛隊に入隊後、東日本大震災をはじめいくつかの災害派遣を経験しました。資格を要する「地域防災マネージャー制度」で昨年から当市に奉職しています。

大災害で自衛隊が必要とされるのは、自己完結性という、いかなる状態でも平素と変わらない営みを続けることが可能だからです。被災地では行政も、消防も警察も自身が被災しており満足に動けないことが多いからなおさらです。

災害時には被災者の情報が重要で、平素から地域の人々の見守り活動や相談支援を行っており、そこで暮らす人々の現状を把握しているのが民児協の皆さんだと思います。「災害に備える民生委員・児童委員活動10か条」に基づいて活動していただきたいと思います。

最近では災害時に避難所、医療施設、学校などで喫緊の需要があり、救援物資や医療、人手などは迅速かつ潤沢に供給されるものの、それをコントロールする市役所が有効に機能するように、自衛隊がその機能を補完しています。

災害対応としては平常時は自治会、自主防災組織などの関係団体との連携構築、防災無線や各種サービスなどによる情報収集を、避難時期には警戒レベルに応じた行動を心がけてください。

泉南市民生委員・児童委員協議会のマニュアルでは地区委員による安否確認と3日以内の報告を要求しており、定められた報告書の様式も優れていると思います。

総括すると、災害時に被災地は混乱しており、民児協の平素の活動による正確な情報が、確実に被災者を救うということを銘じ活動されていることを感謝します。

部会だより

広報部会

貝塚市民児協広報委員会との交流会を終えて

4月9日貝塚市役所にて「広報紙作成」と「タブレットを利用した活動」について交流会を行いました。

資料によると貝塚市の人口は8万1300人、民児協は11小学校区148人となっています。

交流会の冒頭、貝塚市太田民児協会長より、「貝塚市民児協は『広報』『研修』の2委員会となっており、別にICT利用推進委員会が活動しています。本日は、広報紙作成について忌憚のない意見交換をしていただければと思っています」とご挨拶いただきました。

次に当市杉本会長より、「泉南市民児協が昨年より開始した『避難行動要支援者名簿』の対応や、委員の活動にタブレットの使用を考えているので、今回貝塚市民児協さんのタブレットの活用方法を聞かせていただき参考にしたいと思っています」と挨拶を返し、交流会が始まりました。

広報紙の作成について

貝塚市広報委員より広報紙作成の考え方の説明がありました。「発行は誰に何をどのように届けるか」「次も読みたいと思える紙面作り」「特に誰もが読んで解るような言葉の表現に心掛けること」を目指して今の形になっています。

発行は年2回(500部)夏号冬号としているのは、締め切りに間に合わないことがあり、時期を曖昧にしているとのことです。紙面作成は担当制としており、ページ単位で責任をもって作成、校正作業は各委員がタブレットで確認して行っているとのことでした。

泉南市では各地区委員会・部会に原稿を依頼し、その原稿の校正作業に多くの時間を費やしている現状を報告しました。

この作業がタブレットで行なえるのであれば効率が上がると思います。また、現在の「民児協かいづか」を見ましたが、文字は横書きで簡潔、字間も広く写真も多い、「川柳」や「なぞなぞ」を掲載するなど見てもらえる工夫を凝らしています。

最後に、貝塚市から泉南市の広報紙について「率直に言って読みづらい」「漢字ばかりが目に入る」「次を見ようと思わない」とストレートな意見をいただきました。

今回、貝塚市広報紙の作成理念や紙面づくりを聞かせてもらい、紙面づくりにいろいろなアプローチがあることがわかり、今後の広報紙作成に役立てていきたいと思いました。

タブレットの利用について

貝塚市では一昨年より委員全員にタブレットを配布し、事業者による研修を2時間程度受講し情報閲覧やデータのダウンロードの運用が始まっていて、各委員は主に事務局や役員会等からの情報提供を受け、その画面を確認するだけの操作の方が大半で、一部の方が活動報告の提出に利用しているそうです。

今回の広報委員さんの話を聞いて、実際に画面を見せてもらい、これなら広報部会の役に立ちそうだと思いました。

西浦　廣美

地域福祉部会

【ふ】【く】【し】

【福祉】＝『【ふ】だんの【く】らしを【し】あわせに』をテーマに活動しています。

具体的に説明すると普段の暮らしができなくなった方に対するサポートです。その手段として福祉・防災・ＡＥＤ・応急手当などの講習を受け、各会員が自信をもって的確にサポートができるように日々研鑽に励んでいます。

この活動で最も留意しておかなければならないことは、平常時・発災時ともに自らと家族の安全確保であって、それができているからこそ対象者へのサポートが可能になるということです。私も参加した令和6年2月の講習の教材『災害に備える民生委員・児童委員活動に関する指針』の中に記載のある「災害に備える民生委員・児童委員活動10か条」を部会員みんなで熟読し、必要になったときに活用できるようにして、少しでも地域のお役に立てればとの思いで取り組んでいます。

中村　義春

災害に備える民生委員・児童委員活動10か条

（民生委員・児童委員として災害に向き合う大原則）

第１条　自分自身と家族の安全確保を最優先に考える
第２条　無理のない活動を心がける

（平常時の取り組みの基本）

第３条　「地域ぐるみ」で災害に備える
第４条　災害への備えは日ごろの委員活動の延長線上にあることを意識する
第５条　民児協の方針を組織として決定し、行政や住民等にも周知する

（市町村と協議しておくべきこと）

第６条　名簿などの個人情報の保管方法、更新方法を決めておく
第７条　情報共有のあり方を決めておく

（発災後の民児協活動において留意すべきこと）

第８条　委員同士の支え合い、民児協による委員支援を重視する

（避難生活から復旧・復興期の活動で意識すべきこと）

第９条　支援が必要な人に、支援が届くように配慮する
第10条　孤立を防ぎ、地域の絆の維持や再構築を働きかける

主任児童委員

笑顔で

樽井地区の主任児童委員をお引き受けしてもうすぐ2年になります。日々の多くの活動は不安と戸惑いの連続で、初めて会う方との会話を最も苦手とする私にとってこの活動が務まるのかと未だに悩むことがあります。

泉南中学校ふれあいフォーラム

そんな中、私たちの活動の一つに地域のお子さんやお母さんと関わるサロン運営や園庭開放のお手伝いがあります。ある日、そこに来ていたお母さんが「大変な子育て中でも空いた時間を見つけて手芸を楽しんでいます」と笑顔でたくさん話を聞かせてくれました。

主任研修を受けた際に相手の話を聞く大切さを学んだことがあります。これなら私にもできるかもと一歩進んだ瞬間でした。これからも先輩方にご指導いただき、前任の方から引き継いだオレンジベストとピンクエプロンを大切にし、この活動への理解を深めていけたらと思っています。

西野　直美

企画部会

3年間の活動

かつて亡き妻が民生委員児童委員としてみなさまのお世話をしているのを、私はただ傍観しておりました。

幸いに健康でもあり、地域への恩返しになればと、3年前に委員をお受けいたしました。活動を始めるにあたり、かつての同僚の口癖を思い起こしておりました。

「君は家に帰れば奥さんが話を聞いてくれる。俺は、壁に向かって話をするしかない」

私の担当地区も独り住まいが増えておりますし、私自身も独りですので、同僚の言葉をひしひしと感じております。この3年間、企画部会やさまざまな研修を通して新たな人脈もでき、ほんとうに得難い時間と経験であり感謝しております。今後も、体力の続く限り尽力できればと思っております。

柿花　英世

子育て支援部会

絵本の読み聞かせ方

2月の定例会では、子育て支援センターひだまりの和田先生に「学ぼう絵本の読み聞かせ方」についての研修がありました。

絵本を読み聞かせるために、まずは子どもの視界に動く物や、興味を引くものが無い環境を整え、絵本の見やすい所に座る場所を作ります。

絵本を持つ手はしっかり固定し絵を隠さないように注意し、話すテンポや情景に合わせページをめくります。

声のトーンは、聞き取りやすい落ち着いた声で内容の雰囲気を壊さない範囲で声色を使い分けながら読み進めていきます。

図書館では、幼稚園・学校や団体の活動で利用する場合は、1か月～6か月の貸し出しがあり、絵本選びに困った時には相談にも乗ってくださるそうです。

読み聞かせを通じて、私たちも楽しみつつ、地域の子どもたちとより一層距離を縮めていければと思いました。

辻野　民子

絵本の読み聞かせ方研修会

児童福祉部会

和歌山県立仙渓学園を訪問

昨年12月11日に児童自立支援施設「和歌山県立仙渓学園」を訪問しました。

この学園は根来寺を過ぎ、自然豊かな広大な敷地の中にあります。

児童自立支援施設とは「児童福祉法44条」により都道府県に設置され全国で58か所あります。運営は①職員である実夫婦とその家族が小舎に住みながら支援を行う小舎夫婦制②通勤職員が交替で勤務する交替制があり、仙渓学園は交替制の支援形態です。

生活指導課長の話によりますと、仙渓学園は創立115年（明治42年に創立）になり、現在は中学生男子5名・女子5名が入所しており学園の基本理念等に基づいて生活しています。

小学校・中学校の分校も併設されていて、平日は学校の授業やクラブ活動を行い、休日には「みんなの畑」で野菜や果物を育て食べています。また、社会奉仕活動として近くの春日神社の清掃活動を月1回行い地域との関わりを続けています。

部会長　石橋　英子

和歌山県立仙渓学園

地区だより

西信達地区

一緒に楽しんだ昔遊び

体育館で小学校の1年生の子どもたちと昔遊びをしました。お手玉、折り紙、コマ回し、けん玉、あや取り、輪投げと6種類の遊びを先生役の民生委員が昔を思い出しながら子どもたちと一緒に歓声を上げ、楽しい時間を過ごしました。

小生の子ども時代も女子はお手玉、あや取り、おはじきを、男子はコマや紙飛行機や手製の紙鉄砲等多彩な遊びで友だちとお互い競い、教え合う小さな集団がいくつもでき、大声で楽しんでいました。

過去も現在も子どもの時は純真、何のてらいもなく懐いてくる…。いつの間にか年齢を重ね、段々その感性を失って大人になる。今の自身を振り返ると改めて子どもたちって、いつの時代も本質は変わらないと思いを新たにしました。

礼儀正しい子どもたちに感心しきり。この子どもたちが長い人生の中でこんな遊びを小学校時代の昔にしたんだよ…、と大人になって思い出してくれれば何よりも嬉しいな。

渡邊　茂男

西信達小学校体育館

樽井地区

小学生の「まち」取り組み

「自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断して問題を解決できる能力の育成」を目的として平成12年から「総合的な学習」が始まったのをご存じですか。

学年ごとに児童が中心となってテーマを決めて活動していますが、今年は学内にとどまらず地域の人にも知ってもらおうと、2年生と3年生が樽井区民センターで2日に分けてその成果を発表してくれました。

2年生は「まち探検」でお話をお聞きしたお店や工場の人、交番の警察官などを模造紙に描いた「まちのすてき人ずかん」を発表しました。

3年生は2部に分けて少し踏み込んだ仕事の内容についての発表と、参集した地域住民に教えてもらいながらあや取り、おはじき、お手玉、けん玉、コマ回し、メンコなどをいっしょに楽しみました。

他の学年の活動を含め詳細は樽井小学校のホームページに掲載されています。

井ノ口　一如

「まちのすてき人ずかん」発表

雄信地区

幡代ほのぼのサロン

いつまでもコロナに負けるわけにはいかない、と思い切ってサロンを再開することになりました。

包括支援センターなでしこを通じて消防署の救急隊員の方に講演をお願いしました。

講演の中で一番心に残ったのは、日ごろから家族で「人生会議」を開き、もしもの時、自分が望む医療やケアについて考えておくことが大事ということです。

また、マイナ保険証は既往歴やかかりつけ医、服用している薬などのデータが入っているので、搬送する病院を決める時に大変役に立つことも教えていただきました。

新家地区

ひとり暮らし高齢者の住宅防火診断

市役所危機管理課と女性消防団員による住宅の防火診断に同行しました。

ガスコンロの使用状態や火災報知器の作動確認、暖房器具の確認、家の周りに燃えやすいものがないか等を細かく点検していただきました。

緊急時のかかりつけ医や服用薬等の記入された用紙を入れた円筒の入れ物（ＷＡＯ）。火災報知器の期限切れや火災消火器の設置は約半分。火事が多発している中、被害減少を図るため注意喚起したいものです。

高齢者の方々は細かく点検してもらい喜んでおられましたので、次の機会があれば他の方にもお勧めしたいです。

高齢者の方々からは普段心掛けていることをお聞きしました。頑張って生活されている様子がよくわかり、点検をしてほしいと思われることが、よい心掛けと感心させられました。

佐阪　恵子

今回のサロンは、インフルエンザが蔓延している中での開催でしたが28名が参加してくれました。

地域でひとり暮らしの方や認知症初期の方を見守るためにも、サロンで顔を合わせて会話をすることは、大きな意味がある、と感じました。

さて次は、どんなサロンにしようかな？

委員長　田中　年美

女性消防団員による防火診断

こどもたちとともに

子ども食堂交流会に参加して

1月29日、あいぴあ泉南で「泉南市子ども食堂ネットワーク交流会」が行われ、約40名が参加しました。講演は、NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえ北川淳也氏の「アンケート結果などから見えることこども食堂の現状」と、NPO法人キリンこども応援団　水取博隆氏の「南大阪こども食堂ネットワーク」についてでした。

こども食堂の現状

北川氏によると、規模・頻度や活動形態を増やしたいという意向を持った運営者もいるが、6割は現状維持を望んでいるとのことです。また、子どもへの食事提供・多世代交流・地域づくりまちづくり・ひとり親家庭支援等多くの活動目的が上がっています。

参加した子どもの意識調査で、悩みを相談できる人や本音を話せる人がいる割合が高いことからも、子ども食堂に意義があるとのことでした。

南大阪こども食堂ネットワーク

水取氏によると、子どもの居場所がないと感じ、子ども食堂「キリンの家」を立ち上げ、その中で不登校を支援する必要性に気付き「フリースクール　キリンのとびら」を設立したそうです。

そして、泉佐野市内で2か所運営していますが、他のこども食堂との連携が必要と「南大阪こども食堂ネットワーク」を組織しました。現在、高石市以南の8市4町を対象に「情報発信」「運営支援」「立ち上げ、課題共有」「資金援助」の活動を行っています。

子ども食堂は貧困対策だけではなく、子どもたちの居場所を増やしていくために、地域のみんなで考えていきましょうと締めくくられました。

グループワーク

その後「地域の子どもたちに必要な場所」というテーマで、グループワークを行い「安全で安心できる」「笑顔で過ごせて居心地が良い」「異なる年代と接することができる」「動物と触れ合える」等の意見が出ました。

最後に、北川氏が各事業所同士の繋がりを大切に、定期的に交流会を行ない問題点を共有していきたいとまとめました。

金田　治代

お元気ですか！ 先輩

信達地区
古谷　克代

令和4年11月に、民生委員児童委員を退任して2年あまり過ぎました。35歳で、子育て最中によく分からずに引き受けることになり、42年間勤めさせていただきました。これも先輩の方々、関わっていただいた全ての方々のお陰だと感謝しております。

在任中に、勲章が決定していましたがコロナ禍で皇居に行けず、退任した翌年に行かせていただきました。有難うございました。

現在、地区福祉委員、六尾の郷の２か所で運営推進会議、社協のハイキング、地域の老人クラブと微力ながら関わらせていただいております。

大阪府社会福祉協議会の「ふくしおおさか」2020年新春号で紹介していただいた水泳、ボウリングは今でも下手なりに続けております。

最後に、皆様のご健康、更なるご活躍をお祈りいたします。

おめでとうございます

大阪府知事表彰
永年勤続民生委員表彰
（20年勤続）

藤澤和美（樽井）
中尾ひとみ（樽井）
辻野豊美（鳴滝）
大家清美（西信達）

泉南再発見

長慶寺　本堂

神亀年間（724年頃）行基により創建され、海会宮寺と呼ばれました。聖武天皇の勅願寺であったと伝えられています。

天正6年（1578年）、信長・秀吉の根来攻めの際、伽藍は殆ど焼失しました。唯一焼け残った観音堂を、豊臣秀頼の命により現在地へ移築し、当時の年号を逆にして長慶寺と改めました。

本尊・如意輪観音は行基自作の秘仏で60年に一度御開帳されます。（現在30年位）

また庫裏では、貴重な澄禅流悉曇（梵字）の掛軸や屏風を拝見させていただけます。

境内には、ぼけよけのお地蔵さまもあり、鐘楼からは関空や淡路島、泉南市の町並みが一望できます。

編集後記

4月13日より10月13日までの半年間、大阪・関西万博が開催されています。テレビ、新聞の報道だけでなく、多くのインフルエンサーがスマホなどでさまざまな国の「未来を見よう」「異文化の体験をしよう」と連日その魅力を発信しています。

55年前の大阪万博では月の石を一目見たいとワクワクしながら何時間も並んで待った思い出がよみがえりました。

さて、本文中の記事にあるように、貝塚市の民児協広報委員会との交流会を行いました。他市町村の民児協との交流会は10年ぶりでした。広報紙の作り方の違いや、タブレットの利用など参考になるところがあり、今後の紙面づくりに生かしていきたいと思います。

徳田　陽子